

〔畜 産〕

放牧牛（黒毛和種）の個体標識比較試験

横田 修・図師隆一・岩下 忠・初鹿健三
 (宮崎県総合農業試験場肉畜支場)

YOKOTA, O., ZUSHI, R., IWASHITA, T. and HATSUSHIKA, K.
 Comparison of Several Marking methods for Identification of the
 Japanese Black Cattle on Pasture

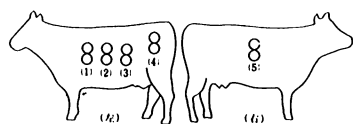
牛の個体標識は放牧牛に限らず、多頭飼育とくに群飼育をするときに、その管理上必要である。外国においても、放牧牛に焼印、化学的らく印、耳標、首環、イレズミなどによるいろいろな識別法が行なわれている。また、黒毛和種や無角和種などの被毛の黒い牛では、人の頭髪脱色剤を使用したり、毛刈り、らく印などをすることがある。宮崎県の場合、肉用牛としては黒毛和種が殆どであるが、個体識別の方法としては、毛刈りを除く他の方法はあまり行なわれていないのが現状のようである。このことから、比較的簡単な方法で個体識別できるものについて、その識別可能な期間を知るために、放牧牛に5つの処理を行ない調査した。

1. 試験方法

- 試験月日 昭44, 5.26～8.24 (90日間)
- 供 試 牛 黒毛和種成雌牛(放牧) 3頭
- 試験区分

区 分	処 理 方 法
過酸化水素水区	過酸化水素水原液と市販のせんたくノリをクリーム状に混合
毛 刈 区	ハサミで毛刈り
オイルブリーチ区※	使用説明書のとおり使用
白色ペイント(毛刈)区	毛刈りを行ないその部位にペイント塗布
白色ペイント(無処理)区	被毛に直接ペイント塗布

○牛体への処理 ※人の頭髪脱色剤



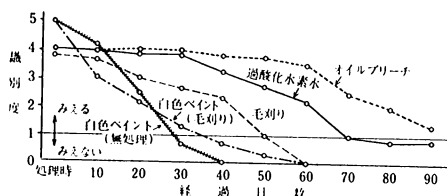
- (1)過酸化水素水 (2)毛刈り (3)オイルブリーチ
 - (4)白色ペイント(毛刈) (5)白色ペイント(無処理)
- 処理液の塗布は習字筆、絵具筆を使用し、3頭とも同じ処理を行なった。

○調査方法 牛体より約20m離れた地点より10日毎に識別をつぎの基準により行なった。

5…最もよくみえる 4…よくみえる 3…普通にみえる 2…少しみえる 1…全くみえない

2. 試験成績

各処理区の識別度の推移はつぎのとおりである。



上図に示すとおり、識別可能な期間の長かったのはオイルブリーチ区>過酸化水素水区>毛刈り区>白色ペイント(毛刈)区>白色ペイント(無処理)区の順であり、オイルブリーチや過酸化水素水を使用すれば、毛刈りに比して識別可能な期間を長く維持できるものと思われる。

識別可能な日数は毛刈り区が30～40日であったのに比し、過酸化水素水区が約60日、オイルブリーチ区が約80日であったので、過酸化水素水やオイルブリーチの方が毛刈りよりも2～2.5倍の効果があった。

白色ペイント塗布は約20日しか識別できず、標識法としては適当でないように思われる。これは牛の運動、こすりつけなどにより塗布したペイントが落ちることが原因と思われる。

3. 要 約

この試験は白色ペイント、毛刈り、過酸化水素水、オイルブリーチを用いて牛の個体標識法の比較を行なったが、オイルブリーチや過酸化水素水処理による標識法が、簡単で有効な方法と思われる。